



県内保育協会へ救急医薬品セットを贈呈

5月27日、新型コロナウイルス感染症の発生及びまん延状況下においても社会生活に必要な「保育」というサービスを堅持されている保育士の皆様に感謝と敬意を表し、兵庫県支部より県内の保育協会へ、園児のけがの手当等にご使用いただくための救急医薬品804セットを寄贈させていただきました。

兵庫県保育協会会長からは、「昨今の大変な状況の中、保育園は必要不可欠な施設だということを改めて認識しており、その中でも子供たちの安全確保や衛生管理をしっかり行っていきたいと考えています。このような素晴らしいセットを寄贈していただき、保育現場の励みにもなります。」とのお言葉をいただきました。

寄贈後、保育士さんの「職員に気持ちを寄せていただいたことがとても嬉しいです。」というメッセージをはじめ、複数の園よりお手紙をいただきました。

兵庫県支部では、今後もこういった支援を続けていきます。



令和2年度 赤十字ポスターコンクールのご案内

募集対象およびテーマ

●小学生

「赤十字のお仕事」「創立130周年」「新型コロナウイルス感染症対応*」

●中学生・高校生

「災害救護活動」「国際活動」「救急法などの講習」「創立130周年」「新型コロナウイルス感染症対応*」

*医療従事者への応援ポスターでもOKです!

応募〆切 9月11日(金)まで ※当日消印有効

詳しい応募要項は
こちらから

<http://www.hyogo.jrc.or.jp/>
赤十字 兵庫 検索



令和元年度の最優秀作品



いのちと健康を守る赤十字活動は
皆さまからお寄せいただく活動資金で成り立っています。
活動資金にご協力をお願いします

郵便局・ゆうちょ銀行からご協力いただけます
口座記号番号:01110-0-1136
口座加入者名:日本赤十字社兵庫県支部
※窓口で取扱いの場合、振込手数料は無料です。



応募者プレゼント

日本赤十字社兵庫県支部の協賛企業、永浜時計眼鏡店様より、シチズン防災時計「ディフェリアR54」を3名様に! たくさんのご応募、お待ちしております!

抽選で
3名様

社名 永浜時計眼鏡店(眼鏡・時計・宝飾)
●兵庫県姫路市元町75 電話番号079-292-4669
創業明治30年の蓄積された技術とアフターフォローで、SS級眼鏡士と1級時計技能士がご案内いたします。

商品名 シチズン防災時計「ディフェリアR54」
●主な機能・特徴
防災クロック AM/FMラジオ付 手動発電機内蔵
携帯電話充電用USBジャック付 懐中電灯(LED
ライト)付 など



ご応募お待ちしております!

応募方法

①氏名②郵便番号③住所④性別⑤年齢⑥電話番号の本誌でよった記事(複数回答可)⑦赤十字病院、血液センターへのメッセージ(任意)をメールまたははがきでご応募ください。抽選でプレゼントが当たります! 〆切りは2020年7月31日必着。

当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。
※いただいた個人情報はプレゼントの発送および当支部からの連絡のみに使用します。

メール shinko-ka8921@hyogo.jrc.or.jp ★件名に「応募者プレゼント」とご記入ください。
はがき 〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-4-5 日本赤十字社兵庫県支部 応募者プレゼント係



兵庫県支部主催の講習について

現在、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策として、人工呼吸の実技、人と人が触れ合う実技、3密が避けられないグループワーク等は実施しないこととして講習を行っています。

今後の開催についての最新情報につきましてはホームページにて随時発信していく予定ですので、ホームページにてご確認いただくかお電話にてお問い合わせください。

ご不便をおかけいたしますが、よろしく願いたします。

講習に関するお問い合わせ **Tel. 078-241-1499**
ホームページ(講習のページ) <https://www.hyogo.jrc.or.jp/lecture/>

遺言・相続財産・お香典でのご協力について

「自分が亡くなった後、これまで築いた財産の一部を赤十字に寄付したい」といったご相談や、大切な方を亡くされたご遺族から、「故人の遺産を社会のために役立ててほしい」というお申し出が増えています。日本赤十字社では、このような尊いご意思に応えるために、遺贈(遺言によるご寄付)、相続財産等のご寄付を承っております。

お問い合わせは☎078-241-8921(振興課)まで

※隔月(奇数月)に発行しています。

日本赤十字社 兵庫県支部
Japanese Red Cross Society

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目4番5号 TEL.078-241-9889 FAX.078-241-6990

赤十字 兵庫 検索 <http://www.hyogo.jrc.or.jp/>



Japanese Red Cross Society Hyogo Chapter
ひょうごの赤十字+
2020
7

■ ホームページ
<https://www.hyogo.jrc.or.jp/>
■ インスタグラム
https://www.instagram.com/nisseki_hyogo/
■ Facebook
<https://www.facebook.com/nisseki.hyogo/>



- ダイヤモンド・プリンセス号における医療救護活動
- 兵庫県支部へ救急医薬品セットを贈呈
- 姫路赤十字病院における新型コロナウイルス感染症対応
- 県内保育協会へ救急医薬品セットを贈呈
- 令和2年度 赤十字ポスターコンクールのご案内



ダイヤモンド・プリンセス号における医療救護活動

神戸赤十字病院 医療社会事業部長 岡本 貴大

新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、現在も加療中の方々やご家族に心よりお見舞い申し上げます。

思い返せばあれは、とある災害救護研修が終わろうかとしている2月の日曜日の夕方でした。携帯電話が鳴るので見ると兵庫県支部事業部長の名前が。

『いよいよ来たか。』

『風評被害もあるようなのであまり公にはできないのですが、ダイヤモンド・プリンセス号への救護班派遣の依頼が兵庫県支部にも来ました。』

『そりゃあ行かないといけませんね。私も兵庫県支部の災害医療コーディネーターで、さらに病院では感染対策にも関わっているのに断る理由はないですよ。喜んで(?)行きます。』

2月22日朝10時に本社に集合し、今からの活動内容と資機材の最終確認をした後、本社の車で大黒埠頭に向かいました。

赤十字救護班の任務は本来ある客船の医務室のサポートで、平時の診療はもちろんのこと、当直、陽性の方の健康観察も任務でした。

船内では厚生労働省をはじめとする関係省庁の方々、感染管理の専門家である研究所、大学、学会の方々、医療チームはDMAT(災害医療派遣チーム)、DPAT(災害派遣精神医療チーム)、医師会、自衛隊、薬剤関係者、そして赤十字救護班と全員がこの客船の乗客、乗組員、そして活動する我々をCOVID-19から守るために“One Team”となっていました。

医務室のサポート以外にもこんな仕事が舞い込んできました。

乗組員の方々は二人で一つの部屋を割り当てられています。もちろん部屋には窓はありません。その中で一方が陽性、他方が陰性と判定されてしまうと感染を拡大させる恐れがあります。拡大させないためには陽性者を隔離しないとけません。隔離するための部屋は当然船という限られた空間なのでありません。それならと船長の許可(船の中では船長は絶対的な権限があるそうです)を得て、下船した乗客の部屋を使おうと、政治家、官僚、医師、看護師、検疫官等々職業職種関係なく客室の清掃にあたり、乗組員の方々の一人一部屋ずつ割り当てることができました。まさしく『すべては被災者のために』という災害救護活動の原則を実践できたのではないかと思います。

今回このような経験をさせていただいたことに対し、日本赤十字社、神戸赤十字病院、そしてともに活動してくれた救護班の方々、そして派遣準備から帰神後に14日間の家族との隔離にまでご配慮していただいた兵庫県支部には心より感謝いたします。



応援ありがとうございました。

赤十字病院の新型コロナウイルス感染症対応に、複数の企業、団体、個人の皆さまから、マスクや防護服、飲料水などのご支援をいただきました。大切に使用させていただきます。

また、たくさんの方から心温まる応援メッセージやイラストをいただきました。ほんの一部ですが、こちらでご紹介させていただきます。

兵庫県支部のホームページにも掲載していますが、青少年赤十字の高校生メンバーからは、動画メッセージやZOOM上の16人で力を合わせたイラスト、赤十字奉仕団からは医療従事者への応援メッセージや、赤十字マークをかたどった花束を赤十字病院へ贈呈いただき、コロナ禍で実際にお会いすることが困難な状況でも、しっかりとつながりを感じることができました。

こういった応援は、赤十字職員にとって活動の大きな原動力となります。本当にありがとうございました!



姫路赤十字病院における新型コロナウイルス感染症対応

姫路赤十字病院 副院長 中村進一郎

2020年2月、国内で新型コロナウイルス感染症が流行する中、まず当院に課せられた任務は2月から横浜港に停泊していたクルーズ船への医療スタッフ派遣でした。厚生労働省からの要請で船内の乗客への医療提供を担いました。それに続いて、埼玉県和光市にあるクルーズ船下船者の一時収容施設にも医療スタッフを派遣し、健康状態の観察などの業務を担いました。まだこの時点では新型コロナウイルスについては不明な点が多かったため、派遣されたスタッフには重圧をかけてしまいましたが、無事に任務を全うしてくれました。

さて、当院は姫路市内で唯一の第二種感染症指定医療機関で、6床(2人部屋3部屋)の感染症専用病棟があります。この病棟は一般の患者さんが入院する病棟とは完全に隔離されており、病室内の気圧が陰圧に保たれて細菌やウイルスなどの病原体が病室外に出にくい構造になっています。3月から兵庫県内で発生した新型コロナウイルス感染者の中で軽症から中等症の患者さんを受け入れて診療しました。4月中旬からは兵庫県内の軽症患者を姫路市内のホテルに移送することとなり、その立ち上げ時に熟練されたスタッフを派遣し、実際の業務に必要なノウハウと運営方法のアドバイスを提供しました。さらに5月からは市内の妊婦さんは全員新型コロナウイルス感染症のチェックを受けることとなり、陽性者が出た場合は当院で対応することとなっております。

現在、当院では院内感染を予防するため来院者すべての方に検温と健康チェックを行い、気になる点がある場合は個別に対応するとともに、発熱や咳などの症状がある患者さんは救急外来のテント内で診察をさせていただいております。また、病院職員の感染予防にとって最も重要な個人防護具につきましては報道されていますように全国的に不足しております。当院も同様の状況ですが、近隣の企業や個人の方からN95をはじめとした医療用マスク、防護服に転用可能なレインコート、フェイスシールドに加工するクリアファイルなど多数の寄付をいただき、おかげさまで現時点では職員に必要な装備をなんとか供給することができております。また、温かい応援のメッセージを多数お寄せいただいております。大変励まされております。ありがとうございます。あらためて職員一同深く御礼申し上げます。

本稿執筆時点では、兵庫県内の新型コロナウイルス新規感染者が発生していない状態が続いており、一旦は落ち着いた状況となっております。今のうちに来たるべき第2波に備えて院内の施設整備、個人防護具の備蓄、救急患者診療のシステム整備など、全職員一丸となって対応出来るよう準備しているところです。皆様もくれぐれも気を緩めず、この新型コロナウイルスと共存していく新しい時代にむけて、自分を守り、社会を守るべく心がけて生活していただくようお願い申し上げます。

トリアージ対応

来院者すべての方に検温と、健康チェック



有症者は、施設外のテント内で診察



感染症病棟入口